

日時：令和5年12月11日(月)10時40分～

場所：文京シビック・センター21階2101会議室

【事務局からの説明】

○検討会議の趣旨について

- ・関係者で連携を図りながら、本区における部活動の地域連携・地域移行のあり方を検討する。
- ・部活動の更なる充実を図る。

○文京区立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討会議について

- ・令和5年度は2回実施し、令和6年度は4回の実施を予定している。
- ・今回は、現状について共通理解を図りたい。
- ・令和6年度は、学識経験者やPTAにも検討会議に入っただく予定である。

○文京区立中学校の部活動の現状について

- ・文京区立中学校の部活動の数(種目)は、令和4年度末で、運動部16、文化部17である。
- ・文京区部活動ガイドラインは、平成31年3月に策定された。活動方針や適切な運営等について示されている。

【主な意見等】

- ・部活動指導員は会計年度任用職員なのか？－そうである。
- ・部活動指導補助員も会計年度任用職員なのか？－ちがう。有償ボランティアである。
- ・部活動指導補助員は学校ごとの採用になるのか？－そうである。
- ・「指導員」と「補助員」の違いは？－指導員は顧問に代わって運営することができる。補助員は顧問、指導員がいる中で、指導を補助するのが役割である。
- ・部活動指導員に運営を任せられるのか？－生徒との関係作りが難しいため、完全に任せられない部分もある。人によるところが大きい。
- ・生徒が少ない場合、部活動の運営はどのようにしているのか？－競技によって異なる。軟式野球部であれば、複数校で合同チームを作って活動している。
- ・部費は集めているのか？－部費は集めているケース多い。
- ・合同部活動は、文化系の部活動でも行われているのか？－吹奏楽で行っている学校がある。

○地域連携・地域移行のあり方

【主な意見等】

- ・学校から部活動がなくなると心配している保護者がいる。地域、保護者、学校が協力して学校部活動を運営していく必要がある。
- ・「地域連携＝外部のいろいろな人から支援を受けて教員の負担軽減につなげる」「地域移行＝学校からなくなる」ということなのか－少し違う。教員も地域に出ていって部活動の運営に加わることもある。
- ・いずれは、平日の部活動を社会教育へ移行していく必要があるのではないか。

- ・どのような形であろうと、生徒の活動を保障しなければならない。併せて、教員の負担感を減らすこともしなくてはならない。
- ・本区では、地域連携はかなり進んでいると感じる。地域移行についてはこれからもっと進めていく必要があるのでは。推進期間の3年間で、モデル事業をみながら、できるところからやっていくべき。

○他自治体の事例等

【主な意見等】

- ・他区では、外部委託が教員の負担軽減のためのメイン事業のように見える。そうすることによって「地域移行」が進むのでは。
- ・中体連の大会は緩和が進んでいて、地域のスポーツ団体も大会に参加できるようになっている。

○その他

【主な意見等】

- ・学校運営協議会では、部活動を新たにつくってくれという意見も出ている。
- ・現場の実態として、部活動をつぶせない。教員には、専門外の部活動の顧問をやってもらうケースもある。しかし、そうすることが、教員に過度なストレスを与えてしまうのではないかと心配である。
- ・技術指導だけで終われないのが学校部活動（人間関係、生活指導）。単純に技術指導だけやるようになったら問題が出てくるのでは。
- ・学校5日制になった時、子供を地域に返そうという気運が高まった。しかし、行政から具体が示されず、結局教員がやることになり、今やブラックと言われている。
- ・中学生が放課後、学校部活動がなくなった時どうするのか。受け皿はあるのか。その認識が保護者地域にはあまりない。
- ・「中途半端」はうまくいかない。「地域移行は平日も併せて」という人もいる。国の考えと教員の思いがミスマッチしているようにも感じる。